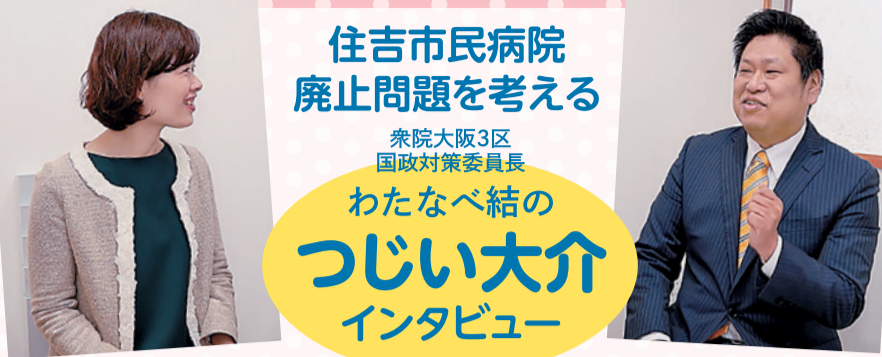


住之江区特集

CONTENTS
 》「住之江くみん応援」わくわくプラン
 》住吉市民病院廃止問題を考える



住吉市民病院
廃止問題を考える

衆院大阪3区
国政対策委員長
わたなべ結の
つじい大介
インタビュー

「聞く力」を発揮して
声あるところにかけつけます!

わたなべ: つじい大介さんのモットーは「相手の話をよく聞くこと」です。つじいさんはこれまで、たくさんの区民のみなさんから、暮らしの相談・街づくりへの要望を聞いてこられました。なかでも、住吉市民病院廃止をめぐる問題には、8年前からかかわっています。現在の状況や取り組んできた思いについてお聞かせ下さい。

「二重行政」を理由に
必要な病院が…

つじい: 住吉市民病院は、市民になくてはならない病院でした。だからこそ、地元町会や医師会など、存続を求める運動が広がりました。しかし、その願いに背き、維新市政が「二重行政のムダ」を理由に廃止を強行しました(日本共産党のみ廃止条例に反対)。その時、私は「住之江区に日本共産党の議席があれば」と悔しい思いをしました。

住吉市民病院は、気軽に安心してかかることができる病院で、重症心身障がい児の短期入所の受け入れなどの福祉的な役割も担っていました。また、家族の付き添いがなくても子どもの入院を受け入れるなど、一人親や共働きの家族にとっても頼もしい病院でした。大阪市は、この医療機能を府立急性期・総合医療センター(以下・府立急性期)に全て引き継ぐとしま

したが、市民病院のスタッフは、府立急性期には移らず、バラバラになってしまいました。長年にわたってつくられてきた医療機能が「二重行政」のひと言で壊されてしまったことに、悔しさでいっぱいです。

わたなべ: 昨年3月末に閉院後、実際にどんなことが起こっていますか?

つじい: 直接ご家族から聞かせていただいた事例ですが、昨年6月、府立急性期で出産予定だった南港東に住む妊婦さんが自宅で破水し、自家用車で移動中に救急車がかけて車内で出産。その後、救急車で救急搬送されました。無事に出産されて良かったのですが、初めての出産で大変不安な思いをされたと思います。

他にも、重度の食物アレルギーがあるお子さんのおられる家族は、市民病院閉院後、実家がある自治体へ引越されました。市民病院がなくなったことが市民の暮らしに大きな影響を与えています。

わたなべ: 住之江区から府立急性期にむかうには交通も不便ですよね。

つじい: 住之江区から府立急性期への直通バス路線は1つしかありません。便数も少なく、時間帯によっては、大変混雑しています。また、住之江区から住吉区に行くには、南海や阪堺線などの踏切があり、通勤時間などは、踏切がなかなか開かず、

時間がかかります。府立急性期へのアクセスの改善は、今すぐ解決しないといけない課題です。

わたなべ: 当事者である子育て中のママやパパも声をあげていますね。

つじい: 先日、住吉市民病院の医療機能を求めるママの会のミーティングに参加しました。そこでは、「子どもが40度の熱をだした時に、近く入院できる病院がなくて本当に不安だった」「民間の病院では出産費用が高い」などの声がだされました。小児科医師は「発熱や下痢など、ちょっとしたことでも2、3日入院をさせてくれる。そんな病院が必要です」と話されていました。府立急性期のように高度医療を担う病院ももちろん大切です。同時に住民にとって身近なところに気軽に安心してかかることができる病院があることの大事さをあらためて、実感しています。

わたなべ: 1月末に大阪市は、住吉市民病院跡地に整備する新病院の基本構想案を発表しました。

つじい: この基本構想案では、新病院には小児・周産期のベッドは確保されず、外来のみとされています。当初大阪市は、新病院には、小児科、産科ともにベッドを確保すると説明していました。今回の計画は、これまでの説明を無かったものとし、市民の切実な思いを踏みにじるもので、許せません。

地域のみなさんからは「昔のように総合病院に戻してほしい」との声も寄せられています。災害時における被災者救援の拠点となる公立病院を行政の責任で建設させ、子どもからお年寄りまで安心して住み続けられる住之江区をつくるため、引き続き頑張りたいと思います。

つじい大介

党 住之江区
市政対策委員長

市会
定数4



政治を動かすのは住民の声
地域医療を
守ります。

民意無視の政治はゆるしません

特集は
4面

Profile

●1979年大阪市此花区生まれ。共働きの家庭で、祖母に育てられる。中学時代は、バレーボール部に所属。府立港高校卒業後、一度は近畿大学に進学するも、「人の役にたつ仕事がしたい」と大学を中退し、大阪総合福祉専門学校で介護福祉士の資格を取得。特別養護老人ホームで約2年間働く。●2003年から青年の願いや要求を実現するために行動する日本民主青年同盟に勤務。青年の雇用問題や学費無償化、給付制奨学金の実現などの運動に取り組む。●2012年から日本共産党木津川南地区委員会に勤務。2015年に大阪市議会議員選挙に初挑戦。2016年からは、地域医療(住吉市民病院)を充実させる市民の会事務局長としても活動。

つじい大介 検索

すみのえ日報

2019年3月2日 518号 発行/日本共産党住之江区委員会
 大阪市住之江区西加賀屋2-6-5 TEL 06-6683-5550
 日本共産党住之江区委員会の訴えを紹介します。

共同のチカラで「維新政治」を終わらせ
安心と希望のもてる大阪へ!! 日本共産党 詳しくは中面へ



みんなの
未来のために
安心して子育て
できるまちを
つくりたい

住吉市民病院跡地に
子どもが

出産、入院できる
ベッドの確保を!

●JCPサポーター大募集

2018年に始動したJCPサポーター。今まで政治に積極的に参加する機会がなかった方々とも、一緒に考え、行動するために、日本共産党が市民のみなさんと立ち上げました。もっと政治を身近に。まずはお気軽に、登録(無料)してください。



●しんぶん赤旗電子版

お申込み月は無料
 日刊紙……………3497円
 日曜版(宅配のみ)……930円
 憲法・原発・消費税・沖縄・国際問題を真正面から報道します。企業名もタブー無し。スポーツ、将棋まで幅広い紙面。



●市民選挙ボランティア大募集

宣伝、ビラのポスティング、SNSに拡散、電話かけ、ポスター掲示、募金etc. 事務所にお気軽にお越しください。
 〒559-0016 住之江区西加賀屋2-6-5
 ☎06-6685-1201(木津川南地区委員会)
 ☞kizugawa@amber.plala.or.jp
 お困りのことがありましたらどんなことでもお気軽にご相談ください。
 ☎06-6683-5550(つじい大介市政事務所)